

「東京都食育推進計画（案）」に対するご意見について

1 意見の概要

パブリックコメント

- ①募集期間：令和3年2月12日（金）から令和3年3月15日（月）まで（32日間）
- ②周知方法：プレス発表、ホームページ（生活文化局及び農林水産部）掲載等
- ③意見送付方法：郵送、電子メールにて産業労働局農林水産部食料安全課あて送付
- ④意見数：27件

2 意見の内容

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
1	10	小・中学校での食育活動	第2章の2で小中学校、企業段階での取組が見出しで明確になっています。 しかし、2章の1が家庭、個人段階であることは文章を読まなければわかりません。 見出しを工夫したほうが良いのではないのでしょうか。	第2章の2は、小中学校や企業や大学など、食育活動の主体について食育の現状等を記載しているため、それに沿った見出しとして「小中学校」「企業など」を記載しています。第2章の1や第2章の3では、「孤食」「欠食」「食品安全」「食品ロス」など、それぞれの問題に沿った見出しをつけております。
2	11	小・中学校での食育活動	「食事」の語句は、「食」のほうが妥当と考えます	学校における食育の視点の1つであり、食事を摂ることの大切さや食事の喜び、楽しさの理解を深めることを総じて、「食事の重要性」と記載しています。
3	12	小・中学校での食育活動	図家庭で子供に食に関して教えていることは2章の1に入るべき図と思われます。	本図は、取組の指標「4 子供が学校や家庭で基礎的な食習慣を身に付ける」にある、子供に食に対する感謝の心・マナーを教えている児童・生徒の保護者の割合について、指標の現状を示したものです。 本調査は、小中学校を通じて行い、内容については、第2章の1の「孤食」「欠食」の問題よりは、家庭とも連携しながら行う学校での食育に関連があることから、「(1)小・中学校での食育活動の現状」のなかで掲載しています。
4	16, 17	食の安全に関する問題	意見というわけではないのですが、P16ではリスクコミュニケーションとなっていて、P17ではリスクコミュニケーションと書いてあるので、直した方が良いのではないのでしょうか？	リスクコミュニケーションに表記を統一します。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
5	17	食品の安全に関する問題	農業関連の仕事をしております。GAPの認知度がこんなに低いとは思っていませんでした。都民への広報を頑張って東京都にやってもらいたいと思います。それだけでなく、農家の方がGAPに取り組みやすい環境整備を進めていってほしいと思います。	施策の方向Ⅲ－1「食の安全に関する理解を深め、実践に繋げる」に沿って、消費者向けに解説動画の配信やリーフレットの配布、スーパー等でのGAP農産物の直売イベントなどにより広く普及します。また農業生産者の取組を進めるため、東京都GAPを取得したことによるメリットを伝える動画配信や取得に向けた機器の導入支援などにより、農業生産者の東京都GAP取得を促進します。
6	23	食育の取組の方向性Ⅲ	6行目「農産物の安全性を確認できる仕組みの周知など」この表現では具体的にどのような仕組みなのかわかりません。	第3章「食育推進の基本的な考え方」では方向性について考え方を示しています。これに対応する具体的な取組は、第4章で示しています。農産物の安全性を確認できる仕組みとして、東京都GAP認証制度の普及等に取り組みます。
7	29	具体的な取組(健康づくりを支える外食産業者等を増やす)	「・都民が望ましい生活習慣を継続して実施することで、生活習慣病の発症・重症化を予防し、負担感なく生活習慣に取り組める食環境の整備を行います。」この文章は、食環境が何を意味しているのか理解できません。もう少し説明を入れてください。	無理なく望ましい食行動を実践できるよう、より健康的な食の選択を可能にする食品の小売や外食の場の提供、食に関する情報提供を行うなど、食の環境を整備することを記載しています。
8	31	具体的な取組(高齢者向けの食育を進める)	高齢者に対して「ホームページで情報発信」、「消費生活教育講座」は、パソコンなどの利用、家からの移動など高齢者には難しい面があると思います。他にも方策を考えてください。例えば、区市町村の広報の利用や老人施設での出前講座など具体的なものがあるといいと思います。	方向性Ⅰ－4「食を通じた健康づくりを進め健康寿命を延ばす」に沿って計画に記載した取組以外にも食育活動団体や区市町村が行う食育活動に対し支援するなど、多様なツールにより食育活動を推進していきます。
9	33	具体的な取組(学校給食や授業を通じて食育を進める)	給食の時間や各教科の授業等の中で食育を、ICTの活用も含め、一層進めます に修正 学校では、ICTの推進が加速しており、学校における食育も適切な範囲で対応できることが好ましいため。また、コロナ等収束の確約もなく、また、今後もインフルエンザ大流行のリスクもあるなかで、レジリエンスの高い食育を確立できることが好ましいため	第3章3(2)「新しい日常での食育の進め方」にあるとおり、具体的な施策を展開していくにあたっては、食育の内容に応じ、デジタルコンテンツによる情報提供やオンラインによるセミナーの開催などの手法の検討を行っていきます。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
10	35	具体的な取組 (食育を進める指導体制を整備する)	<p>学校給食は地元産食材を使うことで学校と生産者との関係も深まり、また、生徒が毎年入学してくるので継続的な食育ができます。</p> <p>しかしながら、学校給食での食育は、関わる校長や栄養職員の方の考え方などにより、個々の学校の取組方針が変わることがあります。</p> <p>食材の納入方法、食育への生産者の関与などについて、東京都で統一した方針を「食育推進チーム」で検討する仕組みを創設するよう記述していただけないでしょうか。</p>	<p>食材の納入方法や食育への生産者の関与などについては、区市町村が地域の実情や特性に応じて判断し、適切に取り組んでいると考えています。</p>
11	42	具体的な取組 (食品の安全に関する情報をわかりやすく伝える)	<p>さらに「【施策Ⅲ-1-1】食品の安全に関する情報をわかりやすく伝える」を読んでも安全性を確認できる仕組みについての記述は無いようです。加筆が必要かと思われます。</p>	<p>農産物の安全性を確認できる仕組みとして、東京都GAP認証制度の普及等に取り組めます。</p>
12	45	東京の農業での食品ロス削減	<p>安全安心・新鮮・直売・消費者の身近な場所での生産・消費者の支持がメリットのように記述されていますが、コラムでは、東京都自らの問いかけに的確に答えていないように感じます。東京農業でも食品ロスは起きています。そのことを消費者に明確に伝えたほうが良いと考えます。</p> <p>しかし、生産者の努力により販売チャネルを拡げたり、B級品を手ごろな価格で販売することにより、少しでも廃棄を少なくしているのが現状です。</p> <p>もともと、大消費地の中にいるからこそできる取組であることは間違いありません。</p> <p>生産サイドで行える食品ロス対策は、状況に応じて即応できる流通部門を育てていくことだと考えます。</p>	<p>食育推進計画で推進していく食育とは、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることです。食育の推進にあたっては、食に関する社会的課題への対応も重要なことから、今回の食育推進計画ではSDGsの達成に貢献できる食育の推進として、食に関する多様な課題に対応するため、食品ロス削減など都民の意識啓発などの取組を進めます。</p> <p>食品ロスの削減に向けては、方向性Ⅲ-2「食品ロス削減を実践する」に沿って、都民向けの動画・冊子等の作成や、オンラインイベントや講習会の開催を通じて、消費者の意識を高め、実践に繋げる取組を進めるほか、食品ロス削減に寄与する企業の取組等を推進していきます。</p>
13	50	関係者の役割	<p>下記のように、デジタル技術活用に関する記述が必要と考えます。</p> <p>「都内公立小・中学校では食に関する指導体制を整備し、必要に応じてICTを活用し、～略～」</p>	<p>第3章3(2)「新しい日常での食育の進め方」にあるとおり、具体的な施策を展開していくにあたっては、食育の内容に応じ、デジタルコンテンツによる情報提供やオンラインによるセミナーの開催などの手法を検討していきます。</p>
14	50	関係者の役割	<p>下記のように、デジタル技術活用に関する記述が必要と考えます。</p> <p>「安全安心な東京産食材などを提供していくとともに、体験や交流の機会をデジタル技術なども活用しながら積極的に提供し～略～」</p>	<p>生産者・流通関係者の食育の進め方については、各主体の判断になります。都は、施策の方向Ⅱ-4「新しい日常に対応した体験機会を提供する」に沿って、区市町村や食育活動団体が行う講座等の食育活動に対してオンラインの活用など非接触型の手法についても支援しています。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
15	51	取組の指標	急には指標の設定が困難かと思いますが、令和8～12年の推進計画では、食品ロス削減の指標が必要に思います	取組の指標の設定については、計画改定の都度、状況を把握し検討します。
16	-	食を通じた健康づくり	おやつ、間食の功罪(健康面での、食品ロスの関連)についての記述説明があってもよいのではと思います。	健全な食生活の実現に向けては、朝・昼・夕と規則正しい食事習慣を身に付けることが重要です。おやつ(間食)は、習い事などで夕食の時間が不規則になりがちな人やスポーツなど運動量の多い人にはエネルギーを補う効果がある一方、おやつの食べ過ぎは、食事のリズムやバランスを乱すことに繋がります。そこで施策Ⅰ-1「ライフスタイルに合わせた家庭での食育を進める」に沿って、栄養バランスの取れた食事に関する情報を発信していくなかで、こうした情報についても提供していきます。
17	-	食を通じた健康づくり	無関心層へのアプローチの重要性 食育という、子どもを対象とした活動が中心となっていると感じる。しかし、子どもの規則正しい生活習慣の確立には、保護者をはじめとした大人の協力が不可欠であるが、食育基本法が制定されて約15年、それ以前に小学生中学生であった人たちは、食教育を受ける機会が少なかったため、大人に対する食育も重要である。 当協会では、小学校での出前講座を実施しており、保護者にも授業内容を共有してもらえよう学校公開日を中心に行っている。しかし、学校公開日に参加する保護者は多くはないのが現状である。効果のある食育活動にしていくためには、現在参加していない無関心層へ対するアプローチが必要となるが、食育に関する情報提供をしても受け手側(無関心層)の意識が変わらなければ、伝える側が様々な活動をしていても食育の実践にはつなげることは難しい。様々な食育に関する情報提供や食育活動の拡大とともに、今一度、なぜ食育が大切なのか、保護者の食育へ対する意識の底上げ、食に対する知識の普及に力を入れる必要があると考える。	食育に関する問題は多岐にわたっており、また世代ごとに取り組むことが期待される食育があります。健康長寿の実現に向け、ライフスタイルや世代に応じた食育を進めていきます。また、施策の方向性Ⅲ-3「食育を広げ、持続可能な社会の実現を目指す」に沿って東京都食育フェアなどを通じ、広く都民に対し食育について理解を深める取組を進めます。また施策の方向性Ⅰ-1「ライフスタイルに合わせた家庭での食育を進める」では親子が一緒に参加できる食育体験を実施するなど、食の楽しさを実感できる家庭での食育を進めます。また施策の方向性Ⅰ-2「若い世代の段階から食に関する意識を高める」に沿って、動画やイラストなどを活用したデジタルコンテンツによる情報発信や、大学等と連携し東京産食材の魅力や食事バランスの大切さなどの理解を提供するなど、若い世代の食への関心を高める取組や食育活動への参加を促す取組を進めます。
18	-	食を通じた健康づくり	一日3食、朝・昼・夕飯を規則正しく摂ることが基本であることが常識であると認識しているが、ライフスタイルの多様化により、家庭内において時間差孤食の傾向はしょうがないことと思います。 しかし、個食、外食、中食はあくまで食事の基本スタイルを理解したうえでしてほしいと考えています。	健全な食生活の実現に向けては、規則正しい食生活や栄養バランスに配慮した食事の大切さなどを理解したうえで、外食や中食の上手な活用などライフスタイルに応じて適切に食を選択できることが重要です。このためライフスタイルや世代に応じ、デジタルコンテンツや講習会など多様な手法を通じ、健全な食生活の実践に繋がる普及啓発を図っていきます。

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
19	-	若い世代の食育	<p>若者が朝食を食べない割合が高くなっています。脳の活性化の低下や栄養の低下の恐れがあるため、普段から朝食の習慣をするにはコロナ禍の感染症予防の徹底の上、ファミレスチェーン等の朝食を食べることが重要です。</p> <p>東京都区市町村の状況を見ると一人暮らしの若者が圧倒的に多いため、都は感染症予防に徹底に情報を発信しながら朝食を大切さを知るような機会に作るべきである。</p>	<p>施策の方向Ⅰ-2「若い世代の段階から食に関する意識を高める」に沿って、生活習慣病の予防などについて動画やイラストなどを活用したデジタルコンテンツによる情報発信や、大学等の学生食堂や企業の社員食堂を対象に東京産食材を試食用に提供し、地産地消の大切さや健全な食生活などについて普及するなど、若い世代の食への関心を高める取組を進めていきます。</p>
20	-	学校での食育活動	<p>この計画のとおり、食育を進める上で小・中学校での給食や授業というものが非常に重要になると思います。この世代への取り組みを中心に据えて、全世代への食育活動を推進してください。</p> <p>食育なんていう言葉が生まれた背景を考えると、個々の家庭に向けた活動より、教育の場で食育活動を進めていくことのほうが現実的なアプローチだと思います。</p>	<p>食育はあらゆる世代の人々に必要なもので、第2章の東京の食をめぐる問題で示したとおり、食に関する問題は多岐にわたっており、世代ごとに取り組むことが期待される食育があります。こうしたことから、今回の食育推進計画は3つの方向性及び具体的な施策を示しています。</p> <p>児童・生徒が食への関心を高める機会として、学校での食育が大きな役割を果たしています。学校給食での地場産物の活用のほか、生産・流通現場での体験機会の提供など、学校での食育を地域と連携しながら推進します。</p>
21	-	地産地消の推進	<p>調布市には畑がまだ残っていて、直売所やスーパーの調布市産野菜コーナーで地元の野菜が購入できます。この枝豆やトウモロコシなどは、他地域のもものと明らかに味が違います。こうしたコーナーに時間の経過による糖度の変化をはじめ、地元のものを購入するとおいしい、環境にやさしいといった食育的なワンポイントを掲げて欲しい。と感じています。</p> <p>積極的に地産地消を推進し、東京の1次産業をPRして下さい。</p> <p>美味しさを数字で見たいこともありますが、いつまでも美味しい野菜が都心近くで食べられるようにするには、多くの人が地元の野菜のすばらしさを知って、購入することが不可欠だと思っています。</p>	<p>施策の方向Ⅱ-3「地産地消を推進する」に沿って、東京産食材を知る・ふれる機会が少ない都心部の消費者に対し、多様な宣伝手法を活用し、鮮度や安全安心など東京産食材の魅力等をわかりやすく発信するPRキャンペーンを実施するなど、東京産食材の魅力を高める取組を進めますとともに、都心部で東京産農産物などを購入できるアンテナショップの運営の支援やデジタルコンテンツで都内の直売所を紹介するなど、東京産食材にふれる機会の提供を進めていきます。</p>
22	-	地産地消の推進	<p>東京産食材を気軽に手に入れられる環境の整備をしないと、地産地消はあまり進まないと思います。</p> <p>学校給食での地場産野菜の活用も重要ですが、東京に来てくれる人向けにPRをすることも重要ではないでしょうか</p>	<p>施策の方向Ⅱ-3「地産地消の推進」に沿って、東京産食材を知る・ふれる機会が少ない都心部の消費者等に対し、多様な宣伝手法を活用して、旬や鮮度など東京産食材の魅力等わかりやすく発信するPRキャンペーンを実施していきます。この中で東京産食材を購入できる場所を紹介し、直売所や飲食店での消費活動に繋げていきます。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
23	-	地産地消の推進	<p>また、私たちのような小さな飲食店でも簡単に東京産食材を仕入れられるようになれば、認知度も高まるのではないのでしょうか。</p> <p>たまたま東京産の野菜を見かけても、値段が少し高いので、仕入に躊躇してしまいます。</p>	<p>施策Ⅱ-3-2「東京産食材にふれる機会を提供する」なかで取組を紹介しているJA東京アグリパークでは、飲食事業者等からの東京産農産物の仕入れに関する相談に対応しています。また東京産農林水産物を概ね年間を通じて積極的に使用している飲食店を「とうきょう特産食材使用店」として登録し、ガイドブックやホームページ等で広くPRしています。</p>
24	-	地産地消の推進	<p>特定の部分の指摘ではなく、都産都消を防災と環境の面からSDGsに照らし合わせて食育をとらえる必要性の提案です</p> <p>防災と食育 SDGsゴール11, 13 * 災害時の食料供給 災害時、農産物(食料)の都内産地から豊洲市場、大田市場への流通経路の確保出来る様、平時より都内産地から地域持ち回りにて年間通して野菜、魚などの都内農産物の市場での流通方法と販売経路の確立しておく。 * 災害時の食事 大規模災害時命を守る食の提案 * 災害時の都市農業の役割 食料供給、避難場所など都民の命を守る都市農業の役割の都民への認知向上</p> <p>都民の生活環境を守る都産都消 SDGsゴール11, 13, 14, 15 ①花粉対策にも有効な林業の活性化と木材の有効活用 ②山林の環境適切化による河川の水質改善 ③田畑による地温上昇の緩和、大気の浄化 ④山林、河川の環境改善による東京湾の環境改善 ①～④は一連の環境連鎖があり、生物多様性が確保された環境の実現。どう実現させるか都民でのディスカッションの活発化</p>	<p>第3章2「食育の取組の方向性」方向性Ⅱにあるとおり、地産地消は旬で新鮮な地元産食材を食べられるだけでなく、農地や海の環境保全、都市防災など多面的な効果が見込まれます。方向性Ⅱ-2「地産地消を推進する」や方向性Ⅲ-3「食育を広げ、持続可能な社会の実現を目指す」に沿って地産地消を進めるにあたっては、こうした地産地消による効果等についても都民に周知し、消費者の食に関する知識の向上やエシカル消費の理念に基づいた行動に繋げていきます。</p>

No.	該当箇所		ご意見	ご意見に対する考え方
	ページ	内容		
25	-	食に関する多様な課題への対応	<p>子供食堂に関する計画が少ない印象です。格差の拡大は国内外問わず、重要な社会的課題であるが、子供の貧困に関してP2「、健やかに成長できるよう、子供・子育ての多様な取組を推進するための計画」、また、子供食堂に関して、「食育活動の拡大～中略～問題」としてP12に「注目されている」との記述がります。</p> <p>しかし推進計画に関しては、P48「普及を目的に東京産食材を提供し、地産地消や東京産食材への理解を深める取組を進める」のみであり、東京産食材の普及の目的に留まり、子供の貧困やSDGs1・食料分配の偏りに対する、明瞭な推進計画が希薄に感じます</p>	<p>食育推進計画で推進していく食育とは、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることです。そのために、今回の計画では、食を通じた健康づくりのほか、生産現場の理解を深める地産地消の推進や、買いきれない作りすぎないなどの食品ロスの削減、食中毒の予防など食の安全について理解を深める取組など、実践につなげる取組を示しています。子供食堂についても、こうした観点から食育を進める取組を示しています。</p>
26	-	新しい日常に対応した体験機会の提供	<p>私は大学で栄養学を勉強しています。将来は、管理栄養士になりたいと思っています。</p> <p>今年はコロナのせいで生産者さんと達と交流できませんでした。そういう人がほかにもたくさんいると思うので、オンラインで体験できる教材などがあればいいと思います。</p>	<p>施策の方向Ⅱ-4「新しい日常に対応した体験機会を提供する」に沿って、区市町村や食育活動団体が行う講座等の食育活動に対してオンラインの活用など非接触型の手法についても支援しています。また食育をテーマにした講座の動画配信や食育に関する基礎的な知識をわかりやすくデジタル化して発信していきます。</p>
27	-	具体的な取組(食品ロス削減を実践する)	<p>食品ロス対策については環境局との連携の下、社会福祉団体や、ホームレス支援団体を通じて食品ロス等の商品を提供してもいいと思います。念のため、福祉保健局との連携を行いながらホームレス等の方々に提供してみたいかでしょうか。</p>	<p>食育推進計画で推進していく食育とは、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることです。食育の推進にあたっては、食に関する社会的課題への対応も重要なことから、今回の食育推進計画ではSDGsの達成に貢献できる食育の推進として、食に関する多様な課題に対応するため、食品ロス削減など都民の意識啓発などの取組を進めます。</p> <p>食品ロスの削減に向けては、方向性Ⅲ-2「食品ロス削減を実践する」に沿って、都民向けの動画・冊子等の作成や、オンラインイベントや講習会の開催を通じて、消費者の意識を高め、実践に繋げる取組を進めるほか、食品ロス削減に寄与する企業の取組等を推進していきます。提案については意見として承ります。</p>